

## イスラエル アジア向け柑橘類のアフリカ廻りの出荷が課題

[FreshPlaza 2024年10月30日](#)

イスラエルの2024年柑橘類シーズンは概ね順調に始まったが、喜望峰を回ってアジア市場に到達するまでの長い旅が、最終的に果実の着荷時の品質にどのように影響するかについて懸念がある。ガリレーエクスポート社の柑橘類マネージャーであるラフィ・ズリ氏は、「これまではグレープフルーツのほとんどをヨーロッパに出荷していたが、これから極東へのお荷を開始する。スエズ運河が機能していないため、これは難題である。南アフリカ廻りで50〜60日かかる長い輸送をしなければならない」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同氏は、市場にはまだ南アフリカ産のグレープフルーツがあるため、価格は高くないと言う。「価格がそれほど高くないのは、市場にまだ南アフリカ産のグレープフルーツがあるためだ。価格は過去2年のようには高くない。販売のペースは通常どおりである。弊社ではほとんどすべてをヨーロッパに送っている。」

イスラエルのグレープフルーツシーズンは第39週(9月下旬)に始まった。「グレープフルーツのお荷は、1か月前の9月末に始まった。ただし、スイーティはその2週間前に始まった。概ね計画どおりに発送した。弊社の主要な柑橘類製品は、ほぼ昨年と同様のグレープフルーツと、今年は昨年よりも収量が少ないオツリマンダリンの2つである。オツリの輸出は減少すると予想される。また、スペインでもオツリを栽培しており競合するため、そちらの作柄にもよる。市場価格を予測するためには、スペインの作柄について知る必要がある。通常、我々はスペインよりも前にスタートするので、12月末からオツリの絶好のお荷時期があるかも知れない。冬季のマンダリン需要は、12月、1月、2月に高くなる。」

ズリ氏は、紅海での武力攻撃がスエズ運河の通過に影響を与えているため、アフリカを廻る長い旅をしており、果実の梱包に特別な注意を払っていると言う。「今シーズン、海運会社はアフリカ廻りの直行ルートを採用しているが、それでも航海は長い。弊社では、これらの目的地に最高品質の柑橘類を確実に届けるため、梱包施設に力を入れている。昨年は多くの果実が遅れ、大きな打撃を受けた。果実の着荷状態がどうなるかはまだわからない。アジアへの輸出が成功したと宣言できるだけの良い状態で到着することを願っている。」

執筆者: クレイトン・スワート (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

## ペルー 今年のマンダリン輸出量が史上最高に

[Agraria.pe 2024年10月31日](#)

(Agraria.pe)2024年初めから10月28日までに、ペルーは21万658.965トンの生鮮マンダリンを輸出し、前年同期の15万9,652.055トンと比較して31.95%増加した。

これは、コンサルティング会社インフォルムアクション(Inform@cción)社代表のフェルナンド・シジョニス・バナビデス氏が報告したもので、この結果、2024年はペルーの生鮮マンダリン輸出量が2022年の記録(20万6,310.765トン)を上回った。同氏は、史上最も多くなったことを強調し、「我々は新しい農場を増やすことなく、生産性の向上のみによって成長し、20万トンの壁を超えた」と述べた。

同氏は、今年の分析対象期間におけるペルー最大のマンダリン輸出産地は11万5,569.463トンのイカ県であり、2023年に報告された8万4,075.195トンと比較して37.46%増加したと説明した。この地域は全体の54.86%を占めた。この果実のもう一つの重要な輸出産地はリマ県であり、お荷量は7万7,641.129トンで、前年の5万4,428.621トンから42.65%増加し、総輸出量の36.86%を占めた。

今年のペルー産生鮮マンダリンの主な輸出先は北米で8万2,900.485トンが向けられ、次いでヨーロッパが7万7,030.013トン、中南米諸国が3万6,458.754トン、アジアが1万4,820.577トンでこれに続いたと同代表は指摘した。

執筆者: ホセ・カルロス・レオン・カラスコ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)